



育ちの芽

副園長 奥村 綾

～『たなばたほしつきランド』～

『たなばたほしつきランド』に向けて、年長の各クラスで出ていた意見を元に、担当を決め取り組んでいます。

【しろ組・星のトンネル担当】まずは、どうやってトンネルを作るか考えました。最初は牛乳パックを繋げて丸い形のトンネルを作りたいと言っていますが「たくさんの牛乳パック集められへんな。」とみんなで考えていると、セタプロジェクトチームの子が「ホールにトンネルじゃなくて、ホールをトンネルにするねん！」と教えてくれました。「どういうこと？」と、みんなで実際にホールに行きました。「ホールのドアが入り口」「ホール全部がトンネル！」「こっちのドアが出口！」と説明をしてくれました。すると「そういうことか」「なんかプラネタリウムみたいやな」と納得する姿が見られました。横のドアは黒い幕を閉めて暗くし、後ろにあるロッカーは全部隠したいという意見から、大きな紙に黒いえのぐを塗り、星を貼って天の川を作ることになりました。作るものがいっぱいなので「入口係」「出口係」「天の川係」「飾り係」の4つに分かれ、設計図を書いたり、話し合ったりして、どういうものを作るか考えました。グループで1つの物を決めるということが難しく「これがいい」「僕が考えたのがいい」と、最初は自分の意見を主張していましたが「色は〇〇くんのがいいやん」「形はどうする？」など、少しずつ他の子の意見を聞く姿が見られました。しろぐみだけでは、ホールを星いっぱいにすることは大変ということで、各クラスに「星が出来たらしろぐみに持ってきてください。」とお願いに行き、クラスごとの星を作ってもらって飾ることにしました。

【みどり組・光る飾り担当】織姫と彦星が光っているところを目指して降りてくるという紙芝居を読み、光る飾りを作って、1年に1度会える時をお祝いしよう！ということになりました。「光るやつをいっぱいぶら下げて、お祭りの真ん中にあるやつを園庭にも作る！」という意見があり「それ何？」となかなかイメージを共有出来ずにいましたが、お祭りの画像を印刷し「これ！」と見せてくれたおかげで、お祭りの提灯とやぐらを作ることに決めました。提灯をどうやって光らせるか話し合い、家にある電球を持って来る子もいましたが「クリスマスの時、園長先生のお家の庭にあるやつ使ったらいいやん！」と、イルミネーションの電飾を使うことになりました。幼稚園にある電飾では長さが全然足りず、メジャーで長さを測って電飾を購入。目指せ100個！と言いながら、毎日提灯作りに奮闘しています。

やぐらは「レインボーにしたい！」というところから、「みんなのクラスの色にしよ！」と決まり、全クラスにクラスカラーの布を持って行き、「デザインして下さい！」とお願いに行きました。

【すみれ組・花火担当】子どもたちがイメージするものをまとめてミニサイズの花火を用意し、子どもたちに見せると、子どもたちから「全然違う」という返答でした。そこから意見を出し合い、実際ベランダで実験を繰り返すこと1時間。子ども達が納得する花火の形が見えきました。翌日ホールのスクリーンで、花火大会の映像を見て、花火をイメージしてからデザインを募集することになりました。「ドラえもんの花火にする」「カラフルで大きい花火にする」とそれぞれが自分の好きな花火を描いていました。募集したデザインがたくさん集まったので、クラスで投票し、デザインを4つに絞りました。決まったデザインの中から自分が作りたいものを選択し、グループで花火制作が始まりました。グループによって下書き通り丁寧に作る場所もあれば、「この色あんまり目立たへんから色変えよ！」「花火もっと増やす！」と各グループ個性あふれる素敵な花火が完成しました。

年長さんから「七夕の笹飾りを作ってほしい」「ホールのトンネルの星を作ってほしい」とお願いされたき組は、喜んで「いいよ！やってあげる！」と張り切っていました。笹飾りで何を作りたいか話し合う前に、笹飾りの意味を伝えました。すると「食べ物を作る！食べ物がなくならないように！」「繋げるやつも作る！」と様々な案が出ました。トンネルの星の話し合いでは、とりあえずキラキラに光る星がいいという事になりました。星の形も色々だということを知ると、丸やひし形などの星を作っている子もいました。年長さんに喜んでもらいたいという気持ちが強く、「今日もこんなに作ったよ！」「昨日と違う形作ってみた！」と毎日取り組む姿が見られます。「き組も一緒に飾りたいなあ」という声が出ているので、一緒に飾れるように年長組にお願いしてみようという話が出ています。

あか組では、ホールに飾る星を、子ども達の意見から、自分達や先生に星を描いてもらって、小さい星をたくさん作るグループと、新聞紙を丸めて布を貼って大きい星を作るグループに分かれて作っている最中です。どんな仕上がりになるかとても楽しみです！

たんぽぽ組では、どんなものを作るか話し合いをした際、「キラキラがいい」「かわいいのにしたい」「星やから黄色」など様々な意見が出ました。この話し合いを経験して、今まで発言を控えていた子も、「ほしつきランドやから星と月を作りたい」「レインボーの色がいい」「丸も付けたい」など具体的に伝える事が出来る子が増えてきました。「盆踊りも、お兄ちゃんお姉ちゃんが考えてくれたやつ？」「たんぽぽ組は何したらいいのかなあ」と話す子もいました。また、年長組の放送もよく聞いていて、「たんぽぽ組も職員室集まるの？」「今、お兄ちゃんお姉ちゃん何してんの？」と興味を持ち、七夕ほしつきランド当日をととても待ち遠しい様子が見られます。

みどり組から布をお願いされたあお組では、年長さんが「ハサミで切るのはなし」という話を聞き、「糊はいいの？」「シールは？」「テープは？」「折り紙は？」と分からないことを年長さんに質問しました。「名前は何？」「何組？」「わからないことあったら聞きにいこう」という子もいました。

れんげ組では、「星のきらきら貼りたい！」「え、ハートがいい！」「キラキラのテープも付けようや！」と色々な意見が出てくるようになりました。

つくし組は、「真ん中に“つくし”って書こ～」「周りにはハートと星描きたい」「アンパンマンも入れて！」と子ども達も飾りつけすることにウキウキしていました。その中で「でもな、ハサミで布を切ったらあかんで！年長さん言ってたやん」としっかりと、約束も守っている姿にも成長を感じました。

さくら組では、年長児が部屋に入って来て話をしてくれると、担任が話すときよりも集中して、目をキラキラさせて聞いていました。「布ははさみ使ったらだめ！」「はさみ使わない！」「はさみ使わずに絵を描くって言った。」と、なぜかはさみを使わない事が大きく記憶に残っている様子でした。その後は、「キラキラの星をみんなで作る！」「キラキラにしたい」という意見が出て盛り上がりました。

このように、それぞれが当日を楽しみにしながら、さまざまな形で取り組んでいます。先日の予行では、初めてやぐら（舞台）に上がり、みんなの前で歌を披露しましたが、恥ずかしがることなく、元気に発表することができました。ただ、当日は、特に年齢の幼い子どもや、初めての事を経験するのが苦手な子どもの中には、「大勢のお客さんが見ている」「浴衣を着る」「夕方に幼稚園に来る」等の理由から、泣いて保護者から離れない子や、何もせずに終わってしまう子がいることが予想されます。

もし、泣いて保護者から離れなかったり、舞台の方に行けない場合も、無理強いせずに、保護者の方もその場で一緒に参加していただくか、先生の指示に従ってください。間違っても

「どうして泣くの?!」「なぜ、あなただけ?!」というような、子どもの気持ちを否定する言葉がけだけは、避けて欲しいものです。

期待に胸を膨らませながら、取り組んできた子ども達をどうか温かい目で見守ってあげてくださいね。

